

4 章 河川維持工

- 4.1 堤防除草工
- 4.2 堤防芝養生工
- 4.3 伐木除根工
- 4.4 塵芥処理工
- 4.5 木杭打工
- 4.6 袋詰玉石工
- 4.7 笠コンクリートブロック据付工
- 4.8 グラウトホール工

4章 河川維持工

4.1 堤防除草工

1. 適用

河川堤防及び高水敷等の除草、集草、梱包、積込・荷卸及び運搬に適用する。
芝育成を目的とした芝堤除草（芝刈）、芝養生（抜取り）、薬剤散布は含まない。

2. 数量算出項目

除草、集草、梱包、積込・荷卸、運搬（堤防除草）、除草、集草（人力）、梱包、積込・荷卸（総合）、除草、集草（機械）、梱包、積込・荷卸（総合）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、施工箇所、除草機種、飛散防止措置、集草機種、機種、運搬機械、梱包の有無、DID区間の有無、運搬距離（片道）とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	3次元 モデル	属性情報											
		施工 箇所	除 草 機 種	飛 散 防 止 措 置	集 草 機 種	機 種	運 搬 機 械	梱 包 の 有 無	DID 区 間 の 有 無	運 搬 距 離 (片道)	単 位	数 量	備 考
除草	B	○	○	○	×	×	×	×	×	×	m2		
集草	B	○	×	×	○	×	×	×	×	×	m2		
梱包	B	×	×	×	×	×	×	×	×	×	m2		
積込・荷卸	B	×	×	×	×	○	×	×	×	×	m2		
運搬 (堤防除 草)	B	×	×	×	×	×	○	○	○	○	m2		
除草、集草 (人力)、梱 包、積込・ 荷卸(総合)	B	○	○	○	×	×	○	○	×	×	m2		
除草、集草 (機械)、梱 包、積込・ 荷卸(総合)	B	○	○	×	×	×	○	○	×	×	m2		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

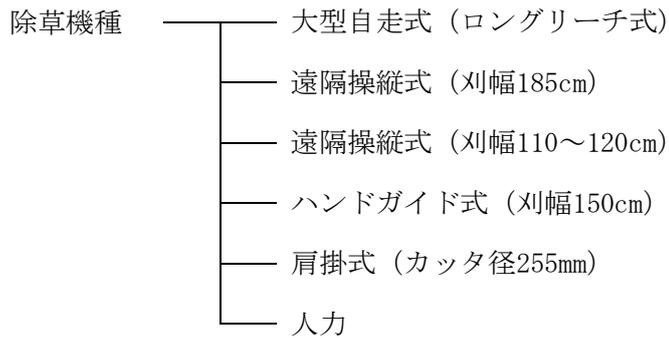
注) 1. 除草面積を作業内容（除草、集草、梱包、積込・荷卸）ごとに区分して算出する。

なお、運搬が必要な場合、運搬経路に応じて、運搬距離を算出する。

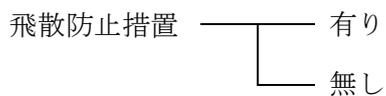
2. 施工箇所毎に工法を区分して算出する。

3. 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。

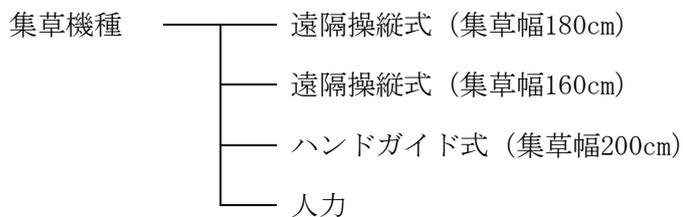
(2) 除草機種による区分



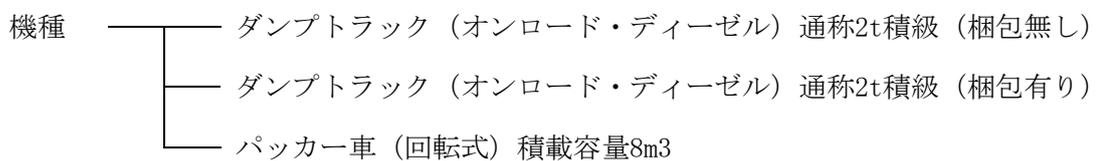
(3) 飛散防止措置による区分



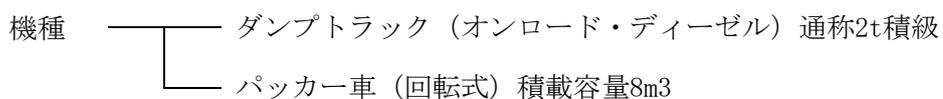
(4) 集草機種による区分



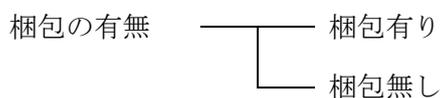
(5) 積込・荷卸における機種による区分



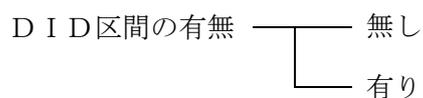
(6) 運搬機械による区分



(7) 梱包の有無による区分



(8) D I D区間の有無による区分



4.2 堤防芝養生工

1. 適用

主に芝の繁茂している河川堤防及び高水敷等において、芝育成を目的とした芝養生工のうち、施肥工、抜根工、集草・積込運搬に適用する。

2. 数量算出項目

抜根、施肥の面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、作業区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	3次元モデル	属性情報			
		作業区分	単位	数量	備考
伐根	B	○	m ²		
施肥	B	×	m ²		

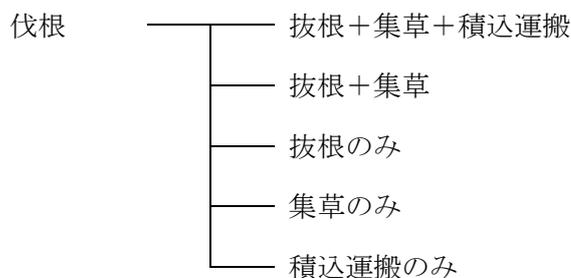
3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 危険物、空き缶、流木、石等の除去は、塵芥処理等で別途考慮する。

2. 積込運搬は、運搬距離 15km (片道) 以下に適用し、15km (片道) を超える場合は別途考慮する。

3. 化学肥料の散布量が 300~1,000kg/10,000m² の場合に適用し、これにより難しい場合については別途考慮する。

(2) 伐根の作業区分



関連数量算出項目

項目	3次元モデル	属性情報		
		単位	数量	備考
処分費	D	m ³		必要な場合別途計上
塵芥処理工	B	m ²		「第2編(河川・砂防編)4.4塵芥処理工」参照

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章 基本事項」による。

4.3 伐木除根工

1. 適用

河川堤防、高水敷又は中州等に繁茂している樹木の伐木又は竹の伐竹を行う伐木除根工のうち、伐木又は伐竹、除根、整地、集積、現場内小運搬、積込み、現場外搬出に適用し、伐木及び伐竹の施工面積は1,000m²以上とする。

なお、樹木と竹が混在する場合は適用できない。

2. 数量算出項目

伐木・伐竹（伐木除根）、除根（伐木除根）、整地（伐木除根）、集積積込み（機械施工）（伐木除根）、集積（人力施工）（伐木除根）、積込み（人力施工）（伐木除根）、運搬（伐木除根）、伐木・伐竹（複合）の面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、樹木・竹の区分 樹木密集度、除根作業の有無、積込条件、DID区間の有無、運搬距離、集積積込み作業の区分とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

①伐木・伐竹（伐木除根）

項目	区分	3次元モデル	属性情報		
			樹木・竹の区分 樹木密集度	単位	数量
伐木・伐竹 （伐木除根）		B	○	m ²	
除根 （伐木除根）		B	×	m ²	
整地 （伐木除根）		B	×	m ²	

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

注) 1. 刈草及び伐木・伐竹の集積は含まない。

2. 除根した根の集積は含まない。

②集積積込み（機械施工）（伐木除根）

項目	区分	3次元モデル	属性情報		
			除根作業の有無	単位	数量
集積積込み （機械施工） （伐木除根）		B	○	m ²	

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

③集積積込み（人力施工）（伐木除根）

項目	3次元モデル	属性情報		
		単位	数量	備考
集積 (人力施工) (伐木除根)	B	m2		
積込み (人力施工) (伐木除根)	B	m2		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする
注) 現場外搬出時の積込作業は含まない。

④運搬（伐木除根）

項目	区分	3次元モデル	属性情報						
			積込条件	除根作業の有無	DID区間の有無	運搬距離	単位	数量	備考
運搬 (伐木除根)		D	○	○	○	○	m3		

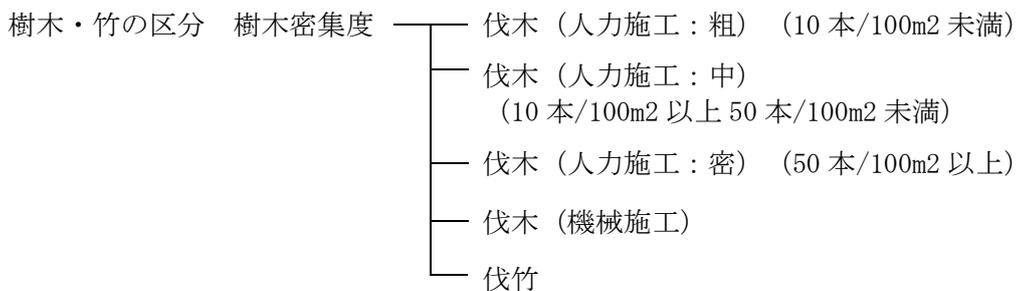
3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

⑤伐木・伐竹（複合）（伐木、除根、整地、集積積込みまでの一連の作業を含む）

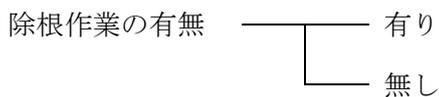
項目	区分	3次元モデル	属性情報					
			樹木・竹の区分樹木密集度	除根作業の有無	集積積込み作業の区分	単位	数量	備考
伐木・伐竹 (複合)		B	○	○	○	m2		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 樹木・竹の区分 樹木密集度による区分



(3) 除根作業の有無による区分

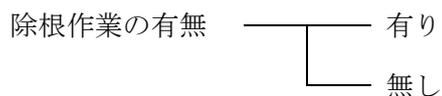


(4) 積込条件による区分

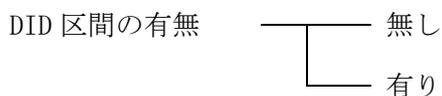
（除根作業が必要（有り）な場合は、機械施工となる）



- (5) 除根作業の有無による区分
(積込条件が機械施工の場合のみ)



- (6) DID区間の有無による区分



関連数量算出項目

項目	3次元モデル	属性情報		
		単位	数量	備考
処分費	D	m3		必要な場合別途計上

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

- (1) 除根（伐木除根）、整地（伐木除根）、集積積込み（機械施工）（伐木除根）、集積（人力施工）（伐木除根）、積込み（人力施工）（伐木除根）の対象面積は、伐木、伐竹（伐木除根）面積と同面積とする。
- (2) 運搬（伐木除根）の運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は平均値とし、自動車専用道路を利用する場合には別途考慮する。

4.4 塵芥処理工

1. 適用

河川堤防、高水敷又は中州等の陸上部にある塵芥の収集・集積、積込み、現場外搬出に適用する。

※適用範囲

- ・項目別施工数量
 - 散在塵芥：1,500m²以上
 - 堆積塵芥（機械による収集・集積）：50m³以上
 - 堆積塵芥（人力による収集・集積）：1m³以上
- ・散在塵芥処理
 - 散在している塵芥（空き缶・木片等）を人力によりビニール袋等に拾い集める場合作業場所の草丈が、1.0m程度以下の場合

2. 数量算出項目

散在塵芥の収集面積、堆積塵芥の収集体積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、作業区分、塵芥の種類、DID区間の有無、運搬距離とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	3次元モデル	属性情報							
		作業区分	塵芥の種類	DID区間の有無	運搬距離	ダンプトラック持込・貸与	単位	数量	備考
散在塵芥収集	B	○	×	○	○	○	m ²		
堆積塵芥収集 (機械処理)	B	○	○	○	○	○	m ³		
堆積塵芥収集 (人力処理)	B	○	○	○	○	○	m ³		

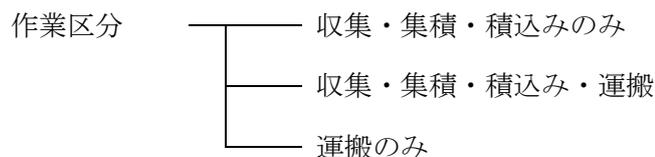
3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 項目分類

塵芥量が 1m³/1,000m² 程度以下の場合は、散在塵芥収集とし、それ以上の場合は、堆積塵芥収集を標準とする。

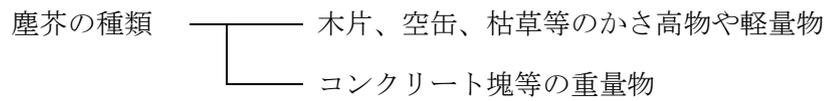
(3) 作業区分

作業区分は、以下のとおりとする。



(4) 塵芥の種類区分

堆積塵芥の種類による区分は、以下のとおりとする。



4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか、下記の方法によるものとする。

- (1) 運搬距離は片道であり、往路と復路が異なる場合は、平均値とする。

4.5 木杭打工

1. 適用

河川における多自然護岸工の施工で、杭長3.5m以下の木杭の打込みに適用する。

2. 数量算出項目

木杭打の数量を算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	3次元モデル	属性情報			
		規格	単位	数量	備考
木杭打	B	○	本		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章 基本事項」による。

4.6 袋詰玉石工

1. 適用

袋材（袋規格2t用及び3t用）に詰石（50mm～300mm程度の玉石、割栗石、コンクリート殻）したものを現地で製作し、築堤・護岸の根固め・床固めとして据付ける場合に適用する。なお、積み方法は、平積み、乱積み及び多段積みとする。

2. 数量算出項目

区分は、袋材規格、施工条件、中詰材とする。

(1) 数量算出項目一覧表

区 分 項 目	3次元 モデル	属性情報				
		袋材規格	施工条件	中詰材	単位	備考
袋詰玉石	B	○	○	○	袋	

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

(2) 袋材規格

袋材規格による区分は下記のとおりとする。

- ①2t 用
- ②3t 用

(3) 施工条件

施工条件による区分は下記のとおりとする。（3t 用は除く）

- ① 据付深さ 4m 以下及び作業半径 5m 以内
- ② 据付深さ 4m を超え 9m 以下又は作業半径 5m を超え 18m 以下

(4) 中詰材

中詰材による区分は下記のとおりとする。

- ①購入材
- ②流用又は採取材

4.7 笠コンクリートブロック据付工

1. 適用

矢板護岸工に使用する1.1t未満、長さ2.7m以下のプレキャスト笠コンクリートブロック（鋼矢板用）の陸上施工による据付（据付作業半径：20.0m以下）に適用する。

2. 数量算出項目

笠コンクリートブロックの延長、中詰コンクリートの体積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、笠コンクリートブロック規格、据付作業範囲（据付作業半径、据付面高さ）、中詰コンクリート底版型枠の有無、中詰コンクリート規格、中詰コンクリート100m当り設計量、基礎碎石の有無とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区 分 項 目	3次元 モデル	属性情報								
		笠コンクリート ブロック規格	据付作業 範囲	中詰コンクリート 底版型 枠の有無	中詰コンクリート 規格	中詰コンクリート 100m当り 設計量	基礎碎 石の 有無	単 位	数 量	備 考
笠コンクリート ブロック	A		○	○	○	○	○	m		
笠コンクリート ブロック (材料費)	A	○						m		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 据付作業半径とは、機械を水平で安定した地盤に設置した場合における機械の旋回中心から吊りフックまでの水平距離である。
2. 据付面高さとは、機械を水平で安定した地盤に設置した場合における機械の設置面をゼロとした時の据付対象の矢板の天端高である。
3. 基礎碎石の敷均し厚は、10cm以下を標準とし、基礎碎石敷設箇所(矢板の両側又は片側)、材料の種別・規格を問わない。

(2) 規格区分

1) 笠コンクリートブロック

規格には、笠コンクリートブロック1個当りの寸法を記載する。

注) 100m当りのブロック個数、連結金具及び高さ調整金具必要数も算出すること。

2) 中詰コンクリート

使用するコンクリートの規格を記載する。

注) 100m当りの設計量(m³)も算出すること。

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。

4.8 グラウトホール工

1. 適用

河川における樋門・樋管のグラウトホールの施工に適用する。

2. 数量算出項目

沈下板設置・グラウト管設置、グラウト管、均しコンクリート箱抜用型枠設置撤去・間詰コンクリート打設の数量を算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目一覧表

項目	区分	3次元モデル	属性情報			
			規格	単位	数量	備考
沈下板設置・グラウト管設置		B	×	組		
グラウト管（材料費）		B	○	組		
均しコンクリート箱抜用型枠設置撤去・間詰コンクリート打設		B	×	組		

3次元モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする。

注) 1. グラウト管の1組とは、沈下板及びグラウト管とする。

2. 均しコンクリート箱抜用型枠設置撤去・間詰コンクリート打設の1組当たりとはグラウトホール毎とする。

4. 数量算出方法

数量算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」による。